

会議等開催結果報告書

1. 会議名	令和元年度(2019)第3回出雲市介護保険運営協議会		
2. 開催日時	令和2年(2020)3月12日 木曜日 14:00～15:40		
3. 開催場所	出雲市役所本庁3階 庁議室		
4. 出席者	<p><委員></p> <p>嵐谷直美委員、飯國吉子委員、磯田洋平委員、加藤哲夫委員、川谷吉正委員、是光章一委員、齋藤茂子委員、塩飽邦憲委員、須谷生男委員、高橋幸男委員、竹内一子委員、永島真奈美委員、中山博識委員、福場由紀子委員、祝部裕子委員、松浦久美子委員、松本弘委員、三原順子委員、渡部雅人委員</p> <p>〔西嘉直氏(出雲保健所)代理出席〕 (20名) (50音順)</p> <p>欠席：岩崎陽委員、白築明子委員、多田好江委員、原洋子委員、牧野由美子委員、山崎文夫委員(6名)</p> <p><事務局></p> <p>健康福祉部長、高齢者福祉課長、医療介護連携課長 ほか</p>		
5. 会議等において検討された事項等	<p>1 開会</p> <p>2 健康福祉部長あいさつ</p> <p>3 会長あいさつ</p> <p>4 議事</p> <p>(1) 第7期計画に係る令和元年度(2019)の成果指標の暫定評価等について (資料1)</p> <p>(2) 第8期高齢者福祉計画・介護保険事業計画骨子(案)について (資料2)(資料2別冊)</p> <p>5 報告事項</p> <p>(1) 出雲市在宅医療・介護連携推進に係る基本計画の策定について (資料3)</p> <p>(2) 出雲市認知症ケア推進実施計画について (資料4)</p> <p>(3) 高齢者の保健事業と介護予防の一体的な実施について (資料5)</p> <p>(4) 令和2年度介護人材の確保・定着に向けた事業計画(案)について (資料6)</p> <p>(5) 第8期計画策定に向けた今後のスケジュール(案)について (資料7)</p> <p>6 閉会</p>		
6. 担当部署	健康福祉部高齢者福祉課、医療介護連携課	連絡先	0853-21-6212
7. 会議録	別添のとおり		

令和元年度(2019)第3回出雲市介護保険運営協議会会議録(要旨)

1. 開会	本協議会を公開で開催、 傍聴人 0名
2. 部長あいさつ	省略
3. 会長あいさつ	省略
4. 議事	
会長	議題1の第7期計画に係る令和元年度(2019)の成果指標の暫定評価等について、事務局から説明をお願いします。
事務局	<u>資料1「第7期計画に係る令和元年度(2019)の成果指標の暫定評価等について」の説明</u>
会長	<p>評価に関しては、各部会でご検討していただいたことですが、これについて、なにかご質問とかありますでしょうか。</p> <p>19ページの認知症サポーターを養成することは必要なのですが、出雲市ではこれまで2,000人台の養成を続けていましたが、頭打ちのところもあります。大人数での養成講座の開催も難しい状況であり、2,000人にこだわらず、養成講座の回数も入れて多くの視点で評価するという観点から、令和2年度から変えさせていただくというものです。これについてご意見ありますでしょうか。</p>
委員	質疑なし
会長	続いて、来年度から始まります第8期計画の骨子(案)について、事務局から説明をお願いします。
事務局	<u>資料2「第8期出雲市高齢者福祉計画・介護保険事業計画骨子(案)について」</u> <u>資料2別冊「第8期計画に関する基本指針及び介護保険制度に関する国の動き等」</u> <u>の説明</u>
会長	<p>国の方で基本指針を示され、各市町村でもそれぞれアンケート調査に取り組んでいるところで、来年度に向けての第8期の骨格を示していただいたところです。</p> <p>国の方は保険者機能強化を打ち出しているものと、健康寿命の延伸なり介護予防、医療と介護の連携、介護人材の養成を強く求めています。</p> <p>だいたいのところは、今まであったところですが、項目等言葉を変えて構成立てをしてもらっています。第7期では住宅のことで取り上げていますが、第8期では有料老人ホームとサービス付き高齢者向け住宅だけという感じですね。なにかご意見等ありますでしょうか。</p>
A 委員	第5章の中項目と小項目では、「健康づくり・介護予防の推進」「健康づくり・介護

	<p>予防に向けた取り組み」とありますが、国が示した基本指針では「介護予防・健康づくり」となっていて、順番が入れ替わっていますが、なにか意図がありますか。</p>
事務局	<p>出雲市でよく使う言葉が「健康づくり・介護予防」ということで、特に意図はございません。</p>
会長	<p>健康寿命の延伸というところから、その順番で良いのではと思います。 それから、両部会を中心にご審議いただくことと、全体会でご審議いただくということについて、よろしいでしょうか。</p>
委員	<p>質疑なし</p>
会長	<p>議題の二つについて承認されました。 次に、報告事項について第8期計画についての具体案になろうと思いますが、在宅医療・介護連携推進に係る基本計画について、事務局から説明をお願いします。</p>
事務局	<p><u>資料3「出雲市在宅医療・介護連携推進に係る基本計画の策定について」の説明</u></p>
会長	<p>これについて、ご質問やご意見はありませんか。 2ページの取組の柱というところですが、出雲はまめネットで情報の共有が、他の地区に比べると盛んですが、そのあたりはここに入らないのですか。</p>
事務局	<p>まめネットを通じての医療と介護分野の連携です。</p>
会長	<p>顔を合わせての情報交換という仕組みは書いてあるが、まめネットを通じての共有とか紹介とか、介護事業所も使っておられるので書くことができるのではないかと思います。</p>
事務局	<p>まめネットについては、第7期計画にも少し載せておりますが、医療従事者や介護従事者の情報共有のツールとして活用しやすいように動いています。柱の中にはその言葉は入っておりませんが、内容としては入っていきますので、その点ご了解いただけたらと思います。</p>
会長	<p>柱の3番目は、ものすごく高い目標ですね。24時間対応可能な看取りを含むサービス提供体制と書いてありますが、理想像としてはあるけれど、今のステップでここまで目標になるのかなと思います。障がい者の自立支援サービスも、急に親御さんの体調が崩れたとか、本人の状態が悪くなったりとかしたときに、短期入所とか医療のサービスを活用できるようにコーディネーターを置いて対応しようとしています。その際にも、コーディネーターを設置するとか、どことどのような役割分担をするとか、情報をどのような形で事前に共有するとか、かなりきめ細かく3年かがりて詰めているので、この目標はかなり高いなと思います。</p>

事務局	<p>2 ページの一番上に書いています「実現を目指す高齢者の姿」については、これから3年間ということではなく、今後2040年に向けてこうした形が理想像であろうと、それをブレイクダウンして2ページの下にあります3つの柱として掲げています。もちろん3年で計画を成し遂げられるものではないということは承知していますが、これを目標として3年6年9年とどういった形で進めていけるのかということを経年一杯かけて作っていかうと考えています。</p>
会長	<p>PDCA サイクルとして回していくとしたら、具体的な目標が明確にならないとサイクルが回っていかないので、どこをターゲットにするか詰めていただきたいと思います。医師会の方はどうでしょうか。</p>
B 委員	<p>柱3のところですが、看取りだけに関して医師会で、看取りネットワークということを行っています。土日祝祭日とかに学会等に出かけなければならないときにネットワークをお願いして出かけています。24時間可能な体制構築ということは、すぐに医師会として動かせませんが、医師会の事業計画の中に在宅医療を推進する、地域包括ケアシステムの構築に協力するということを盛り込んでいます。各個人の先生方でグループを作って完全24時間当番制を行っているところもあるし、また必要な時だけ、24時間お願いするというところもあります。医師会の中だけで行っているところで、全体でということとは地域も広いですので、なかなか難しいところだと思います。各個人の先生をお願いしている形であるところです。</p>
事務局	<p>補足ですが、こちらの基本方針については、在宅医療・介護連携推進連絡会議で計画を考えているところであります。現段階の案というところです。</p>
C 委員	<p>在宅医療が難しいかなといった時に、病院もですが施設の選択に悩まれていると思います。これがスムーズにいくかどうかお尋ねしたいです。</p>
会長	<p>急性期病院の救急もあるし、老健なり療養型病床の施設でリハビリをやっていくということもあるし、必ずしも大病院ということではなくいろいろな選択があります。ケアマネジャーさんも医療について難しい面もあり、かかりつけ医があれば、まめネットを使いながら対応していけるのではと思います。</p> <p>今後、事務局で検討していただくというところでお願いします。</p>
D 委員	<p>質問ですが、3ページのところアンケートを出しておられるというところです。高齢者の慢性心不全の末期という患者さんの看取りをしています。参考としたいがアンケートについてどの範囲で依頼しておられるのでしょうか。</p>
事務局	<p>この介護保険運営協議会の下部組織にあたる、在宅医療・介護連携推進連絡会議を年に2回くらい行って、医師会の先生や医療介護に係る職の団体や病院のケースワーカーさん等に出かけていただいています。その委員さんに、それぞれの職によ</p>

	<p>で連携に関する問題がないかというようなアンケートを出させていただいています。それを基に、出雲市としての課題をまとめて、市の方での取り組みを考えていこうと思っています。</p>
会長	<p>分野が異なるというところでの連携は難しいところですが、進めていただいたらと思います。</p> <p>それでは、出雲市認知症ケア推進実施計画について説明をお願いします。</p>
事務局	<p><u>資料4「出雲市認知症ケア推進実施計画について」の説明</u></p>
会長	<p>これについて、ご質問はありませんか。</p>
E 委員	<p>認知症ケア推進に向けて追加項目として「通いの場」のご説明がありました。地域支援部会でも、「通いの場」ということは行く場所のことであってなじまない。社会参加として「集いの場」が社会作りの意味合いから良いのでないかという意見がありました。これについて検討しますとありました。また7期の計画の中でも「集いの場」とあると記憶していますが。</p>
事務局	<p>実際、高齢者は、自分たちの活動が「通い」なのか「集い」なのかという言葉に対して執着心、こだわりがないところです。</p> <p>市内部でも検討しましたが、現段階では、国の名称に合わせ「通いの場」としています。</p>
E 委員	<p>原案の計画では「集いの場」ということになっていて、社協としてもサロンということが社交の場というフランス語からきている意味合いで、社会参加の場として活用してくださいと言っているので、「集いの場」ということがなじむのではないかと考えます。</p>
事務局	<p>社協さんをご相談していきたいと思います。</p>
会長	<p>国のどういう考え方が、「通いの場」となっているのか、少し時間をかけて考えていってもらえたらと思います。その他はどうでしょうか。</p>
委員	<p>質疑なし</p>
会長	<p>それでは、次の高齢者の保健事業と介護予防の一体的な実施についてご説明をお願いします。</p>
事務局	<p><u>資料5「高齢者の保健事業と介護予防の一体的な実施について」の説明</u></p>
会長	<p>介護予防の対象者を健診等でスクリーニングして対応するということが以前あり</p>

	<p>ましたが、なかなか参加いただけず失敗に終わっているという反省を踏まえて、高齢者の集まりの中で集団指導を行う、また個別指導を行うというものです。</p> <p>医療専門職が企画調整を行うというのは、出雲市では具体的にどういった方々ですか。</p>
事務局	<p>正規の保健師を配置することが必要であることから、正規の保健師です。</p>
会長	<p>本人のメリットを引き出すようにしていかないといけないですね。</p> <p>他にありませんか。</p>
委員	<p>質疑なし</p>
会長	<p>次に資料6の介護人材の定着に向けた事業計画について説明をお願いします。</p>
事務局	<p><u>資料6「令和2年度介護人材の確保・定着に向けた事業計画（案）について」の説明</u></p>
会長	<p>これについて、ご質問ご意見はありますか。どこもご苦労なさっていると思います。外国人の介護人材はコンサルが間に入っている体制です。私が知っているところではミャンマーから来ておられる人で熱心に取り組んでおられます。</p>
C委員	<p>第7期計画の間でお辞めになった事業所は何箇所くらいありますか。</p>
事務局	<p>傾向として人材不足、経営状況の悪化というところで廃止されるところがありますが、その一方で新規に事業を開設されるところもあります。直近4年間では68事業所が廃止しており、一方で新規開設が77事業所となっています。廃止した事業所は、訪問介護や居宅介護支援など小規模な事業所が多い状況でありました。理由としては、人材不足はもちろんですが、収益性の問題や人件費等の上昇もあると考えられます。様々な事業をやっていく上で、効果は数年後にしか分からないところですが、第8期計画の中で集中して行っていきたいという考えです。</p>
会長	<p>それでは最後の第8期計画策定に向けての今後のスケジュールについて説明をお願いします。</p>
事務局	<p><u>資料7「第8期計画策定に向けた今後のスケジュール（案）について」の説明</u></p>
会長	<p>令和2年度引き続きよろしく申し上げます。これ以外にも部会がありますのでお願いいたします。</p> <p>他にありませんか。</p>
F委員	<p>感想となりますが、認知症について、認知症になったらどう暮らしていくか。NHK</p>

	<p>の番組で放映されていたが、認知症ケアを率いてこられた長谷川先生が認知症になられた。私は気の毒に思いました。認知症のデイサービスを作り上げられ、意味がありどれだけ大切なことかと先生はおっしゃっていたが、デイサービスに行くのは嫌だと言っておられる。つまり長谷川先生にとってのデイサービスではないのですね。以前は良い親子関係であったであろうが、認知症になった暁には笑顔も見れない関係である。どこにでも起こりそうなことかもしれないが、私が認知症になった場合はそのようになりたくないです。笑顔で暮らしたい。家族や周りの人などに何を伝えるか。また、例えばデイケアに長谷川先生に来てもらったとしたら、教えを乞うといった形となります。笑顔で長谷川先生に暮らしてもらうには形式だけ整えるのではなく、どうしたら良いのかをテーマに考えていくことが大切であると考えます。</p>
<p>会長</p>	<p>ありがとうございました。 それでは、他にご意見等なければ、事務局にお返しします。</p>
<p>委員</p>	<p>質疑なし</p>
<p>事務局</p>	<p>今年度の最後の協議会でございます。来年度は第8期計画策定の年度となり、具体にご意見等いただきたいと思っておりますので、引き続きよろしく願いいたします。 本日はありがとうございました。</p>